

令和6年度全国学力・学習状況調査における
北九州市立 本城 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

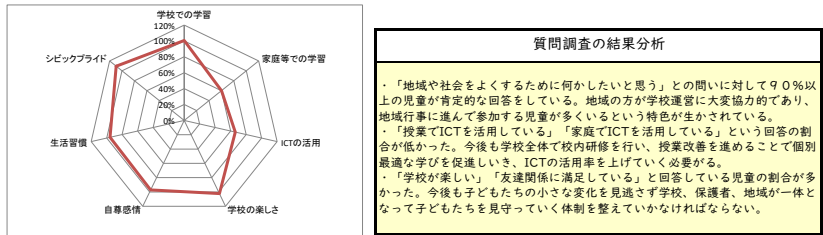
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	ほぼ全項目で全国平均を下回っている。特に読むことに関する問題の正答率が低く、短答式・記述式の問題においては、無回答率も高い。書くことに関する問題においては、全国平均と同程度である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題	下回っている
	努力が必要な問題	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに気付くことができるかどうかみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全項目で全国平均を下回っている。特にデータの活用に関する問題は、知識・技能を問う問題、思考・判断・表現力を問う問題ともに正答率を大きく下回っている。図形の知識・技能を問う問題は全国平均と同程度である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	直方体の見取図について理解し、かくことができるかみる問題	下回っている
	努力が必要な問題	球の直径の長ささと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

・掃除後の15分間をチャレンジタイムとして補充学習の時間を設定する。タブレット端末のドリルアプリを中心に個別最適な学びになるよう取り組んでいく。「全員が参加できる授業」を目指した職員研修を1年間を通じて行い、児童が「できた」「面白い」と思えるよう授業改善に務める。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

・学校の重点目標でもある自己肯定感を高める取組を家庭と一丸となって行っていく。また、学校行事を簡素化し分散することにより児童が「行きたい」「やればできる」と思えるような学校を目指すと共に、その姿を保護者にも応援してもらうことで児童一人一人を励まし、家庭にも啓発していくようにする。